

60年のあゆみ

1954年～ 昭和29年～

八 女	
昭和29年	市制施行、初代市長に中島一之坂本繁二郎画伯を名誉市民に推挙 八女商工会議所設立
昭和30年	山内大橋完成、矢部川橋完成 市章、市歌を制定 岩戸山古墳が国の史跡に指定
昭和31年	財政再建団体の指定（昭和34年まで） 童男山古墳が県史跡に指定 坂本繁二郎画伯が文化勲章受章
昭和32年	福島燈籠人形保存会が発足
昭和33年	国鉄矢部線花宗・蒲原・今古賀駅開業 大干ばつにより対策本部を設置 三井電庫廃止
昭和34年	石人・石馬など48点が県の文化財に指定 坂本繁二郎画伯が市に「箱」の絵を寄贈 市役所を現在地へ移転
昭和35年	第1回市民体育祭開催 八女民生病院組合設立（44床） 八女音頭発表会
昭和36年	八女市農業協同組合発足 坂本繁二郎画伯の銅像を西公園に建立
昭和38年	長雨で被害続出（被害額2億3000万円）
昭和39年	市内の電話自動化
昭和40年	八女市広報創刊 八女市消防本部開庁
昭和42年	国道3号バイパス開通
昭和43年	中央公民館完成
昭和44年	坂本繁二郎画伯逝去（87歳） 市消防署を組合立（八女市・立花町・広川町）に組織変更
昭和45年	市庁舎完成（現庁舎）
昭和46年	八女公会堂解体 全国手すき和紙大会を八女市で開催
昭和47年	八女民生病院を八女公立病院と改称 市立図書館発足 国土調査終了（昭和28年から） 市町村会館完成
昭和48年	岩戸山古墳史跡公園化成る 老人福祉センター完成 九州地区県営農地開発パイロット事業完成 九州縦貫自動車道八女インターチェンジ開通
昭和49年	八女市土地開発公社設立 市木・市花を制定 市民野球場オープン
昭和50年	市民憲章制定
昭和51年	第1回帰郷祭 石人・石盾が国の文化財に指定
昭和52年	八女福島仏壇が国の伝統的工芸品に指定 八女福島島の燈籠人形が国の重要無形民俗文化財に指定
昭和53年	丸山塚・丸山・茶臼塚古墳が国の史跡に指定 第1回八女ふるさと祭り開催
昭和54年	西公民館完成 集中豪雨で農産物に被害、500戸以上が家屋浸水 総合体育館完成 八女中央茶共同組合が天皇杯受賞
昭和55年	向井去来の句碑、岩戸山古墳に建立
昭和56年	第1回市民マラソン大会開催 東公民館完成

黒 木	
昭和29年	町制施行により、黒木町、豊岡村、串毛村、木屋村、笠原村が合併。「黒木町」誕生 黒木町長選挙（初代町長・内藤勘藏） 町営住宅完成（上ノ峰団地10戸・白岩団地10戸・築山団地九戸）
昭和31年	黒木町農業委員会発足 黒木町体育協会発足
昭和32年	大淵村を編入合併 黒木町戦没者合同慰霊祭が初めて行われる 米作日本一競作会 九州ブロック第1位・平島仁助
昭和33年	役場庁舎（旧）落成 米作日本一競作会 九州ブロック第1位・斉藤義勇 町営木匠診療所設置
昭和34年	町営住宅完成（谷団地20戸） 有線放送電話開設
昭和35年	黒木公園竣工
昭和36年	黒木町から初めて3家族がポリビアへ移民 護国神社竣工
昭和37年	老人ホーム「八媛苑」竣工
昭和38年	黒木町農業協同組合設立 「献茶祭」が初めて開かれる 黒木町章決まる
昭和39年	町営住宅完成（谷団地20戸）
昭和40年	町民体育館竣工
昭和42年	NHK青年の主張全国コンクールで三宅輝光が3位入賞 山村振興地域に指定 黒木町立弓道場「大明館」竣工（平成8年移転）
昭和43年	町道の舗装始まる 学校給食センター竣工（桑原地内）
昭和45年	黒木中学校統合（黒木・豊岡・笠原・大淵分教場設置） 八女地区消防組合加入。八女消防署黒木分署設置 笠原地区茶パイロット事業竣工
昭和46年	NHK青年の主張全国コンクールで永石久枝が最優秀賞を受賞 八女消防署黒木分署竣工 新嘗祭献穀米のお田植祭が北木屋馬渡で行われる 塵芥焼却場「若山園」竣工
昭和47年	統合黒木中学校校舎竣工 黒木町の電話自動化 黒木文化連盟発足 黒木町開発センター竣工 「若山斎場」竣工
昭和48年	第1回くろぎ文化祭開催
昭和49年	広域基幹林道奥八女線起工（～昭和58年3月開通）
昭和52年	民放テレビ局黒木中継局開設
昭和53年	黒木西小学校開校（豊岡・串毛小統合）
昭和54年	豊岡町民グラウンド竣工 第1分保育所竣工 町営住宅完成（吉書場団地）
昭和55年	串毛町民グラウンド竣工 過疎地域の指定を受ける
昭和56年	勤労者体育センター竣工
昭和58年	大淵地区基幹集落センター竣工 串毛地区コミュニティセンター竣工 「黒木町音頭」レコード完成（歌 三波春夫） 町花・町木決まる

立 花	
昭和30年	八女郡光友村、北山村、白木村、辺春村が対等合併し、「立花町」誕生（議員数55名） 初代町長に中村次平氏就任
昭和31年	第1回立花町産業総合物産展を開催
昭和32年	町営住宅（谷川団地、国見団地）20戸が完成 社団法人立花町商工会創立 光友・辺春地区が農山村振興地域に指定
昭和33年	大干ばつにより、大きな被害を受け対策本部設置 円福寺の「ビュクシン」と「タイザンボク・ハクモクレンの癒着木」が福岡県の天然記念物に指定
昭和35年	「館報たちばな」「たちばな町政広報」を合わせて「広報たちばな」を発行 兼松地区の改良国道開通
昭和36年	立花町商工会が発足 光友農協ミカン選果場完成
昭和37年	役場新庁舎完成 堤絹子（下辺春出身）が走り高跳びで室内新記録を出し、全米陸上選手権大会や第4回アジア大会でも優勝 集中豪雨により辺春川等が氾濫、大洪水
昭和38年	辺春農協ミカン選果場完成
昭和40年	立花町連合婦人会誕生 立花町体育協会発足
昭和41年	町営住宅兼松団地完成（1期） 立花町出身の作家五木寛之氏が「蒼ざめた馬を見よ」で直木賞を受賞
昭和42年	立花みかんがソ連に初輸出 大干ばつ「倉石農相干害視察来町」 立花町立体育館完成 町営住宅山崎団地完成
昭和43年	立花町消防団、日本消防協会より表彰 町営住宅兼松団地完成（2期）
昭和44年	大洪水・激じんに指定
昭和45年	八女消防署立花分署完成
昭和46年	今村康博が技能オリンピックで金メダルを獲得（下辺春出身）
昭和47年	老人憩いの家「とびかた」完成
昭和48年	社会福祉法人「立花町社会福祉協議会」発足 果樹分析センター完成
昭和49年	上辺春小創立百周年 北山・白木・辺春地区に公民館完成
昭和50年	飛形公園と慰霊碑が完成 田崎廣助画伯文化勲章を受章 立花議会報第1号発行
昭和51年	町内全域をほたる保護区域として保護条例施行 田崎廣助画伯が名誉町民第1号となる キウイフルーツ導入
昭和52年	北山小学校創立100周年記念祭 松延家住宅が国の重要文化財に指定
昭和54年	西日本一帯集中豪雨に見舞われる オレンジロードの全面開通（黒木～立花～大牟田間）
昭和55年	町民憲章制定 町木・町花・町歌の制定 働く婦人の家完成 担い手研修センター完成
昭和56年	第1回立花まつり開催
昭和58年	谷川寺（谷川）の木造仁王像を町文化財に指定 立花町青少年育成町民会議発足

上 陽	
昭和33年	北川内町と横山村が合併して上陽町が誕生 小川秀木氏初代町長に就任
昭和35年	合併により上陽町森林組合が発足 町役場庁舎新築竣工 上陽町青年団発足
昭和36年	町報「じょうよう」第1号発刊 上陽町商工会発足 旧役場跡に社会会館が竣工
昭和38年	田代橋が竣工 上横山保育会「保育所西光園」が開所
昭和39年	下横山木浦に万年橋竣工
昭和40年	第1回筑後地区親善剣道大会が北川内中学校体育館で開催
昭和42年	第1回町民体育祭開催 地域集団電話開通 70数年ぶりの異常干ばつとなり、農産物に被害 堀川バス尾尾線が開通
昭和43年	第1次辺地対策事業 万年橋～尾久保間道路
昭和45年	第1期農免道路工事竣工 合併で上陽町婦人会発足 過疎地域に指定される 寄口橋拡幅 歩道設置
昭和46年	八女消防署上陽分駐所を祇園堂に開設 下横山小学校がソニー優秀賞を受賞
昭和47年	北川内小学校全面改築
昭和48年	東山小学校創立70周年記念式典 上陽町中央公民館完成 老人憩の家竣工 発心城跡が県指定史跡文化財になる 県道北川内草野線完工
昭和49年	農免道路の全線が開通 古賀～木浦間 上陽町製茶研修工場竣工 藤木木浦線道路改良工事竣工 祇園堂交差点に上陽町初の信号機を設置 北川内小学校創立100周年記念式典
昭和50年	岩下橋竣工 紅葉三川線全線完工 第1回上陽町体力づくり歩こう会開催
昭和51年	新入学児に初めてランドセルが贈呈される 上陽町音頭のレコードができる マンモス象の臼歯化石部分、打越で発見
昭和53年	真名子の小淵橋竣工 上陽町体育館が旧社会会館跡に竣工 倉員辰雄画伯が没する
昭和55年	上陽町文化連盟発足 自給肥料供給施設が下横山に竣工 第1回上陽町総合文化祭開催
昭和56年	研修センター「発心」が三川に竣工 上陽町消防団の組織を1本部、4分団29班に組替する 北川内地区簡易水道竣工 下横山小学校創立100周年記念式典 上陽郵便局が大瀬に新築移転
昭和57年	八女消防署上陽分駐所を八女東消防署上陽分署に改称昇格 横山郵便局が新築移転

矢 部	
昭和32年	日向神ダム建設（笹又地区）により校舎水没のため飯干小学校が移転新設
昭和35年	県営日向神ダム完成
昭和36年	善正寺「厨子」県文化財に指定 フクニチ児童文化賞受賞（矢部中学校）
昭和37年	矢部村愛林クラブ設立
昭和38年	村有林育成大事業
昭和39年	栗園の開発を開始（3カ年計画）
昭和40年	矢部村老人クラブ設立
昭和42年	矢部～前津江線県道が開通 矢部村商工会発足 村章を制定（公募）
昭和43年	日出小学校を矢部小学校に統合
昭和46年	八女東消防署矢部分駐所を設置 御側小学校を矢部小学校に統合
昭和47年	矢部村基幹集落センター「おおそま」落成
昭和49年	八女津媛神社「浮立」県無形民俗文化財の指定を受ける
昭和51年	矢部村商工会青年部を結成 矢部村商工会婦人部を結成 高巣小学校を矢部小学校に統合 県道八女小国線、国道442号に昇格 第1回矢部村桜まつり健康マラソン大会開催 第1回矢部まつり開催
昭和61年	矢部中学校、県教育文化功労賞受賞
昭和62年	村花、村木、村鳥を指定 「杣人の家」開設 「村を考えるシンポジウム」開催、特別講演は劇作家の栗原一登氏
昭和63年	矢部小学校跡に庁舎、中央公民館完成 「秘境柚の里」シンボルマークが決定。福岡・熊本・大分県境にある矢部村の発展をイメージ
平成元年	村制100周年記念事業を敢行 矢部村商工会館が落成 劇作家、栗原一登氏を名誉村民に 村歌「ふるさと矢部」「大柚・矢部の風唄」制定 財団法人「秘境柚の里」設立 釈迦岳が福岡県で最高峰と確認される 秘境柚の里深流公園本オープン とびうめ国体、炬火採火地に選定される 広域基幹林道「矢部線」開通
平成3年	第1回「世界子ども愛樹祭コンクール」実施 総合福祉団地「ゆいのもり」造成開始
平成4年	福岡市中央区にアンテナショップ「ソマリアン」（福岡天神）オープン 全国秘境サミット矢部会議を開催 過疎地域活性化優良事例が国土庁長官賞を受賞
平成5年	矢部村高齢者生活福祉センターがオープン
平成6年	桜まつり健康マラソン大会や村民体育祭の取り組みで「全国体力づくり国民会議長賞」を受賞
平成7年	秘境柚の里に八女津媛像完成 広域基幹林道北矢部線の「あいのひめはし」（全長90.5メートル）が完成。題字は女優の栗原小巻さんの直筆
平成8年	奥の院で全日本トライアル選手権九州大会が開催。来場者は1600人 豊かなふるさとづくり全国フォーラムが内閣官房長官賞を受賞 小規模特別養護老人ホーム「ゆいのもり」開所 旬の厨ソマリアン（食材供給施設）オープン 県営シルバーハウジング・村営ゆいのもり住宅落成
平成9年	全国林業コンクールで矢部村愛林クラブ農林水産大臣賞受賞
平成10年	文部省、県指定へき地高度情報教育研究推進校（矢部小学校）平成10年度～12年度 矢部村とアンカレッジ小学校グローバルプロジェクト第1回会議を開催

星 野	
昭和30年	星野中学校、椋谷小学校、学校給食完全実施を開始 池の山に忠霊塔が建立 ※書は内閣総理大臣吉田茂
昭和33年	星野保育会（星光園）が開園
昭和34年	小野、仁田原、椋谷小学校にへき地集会所（講堂）を設置
昭和35年	星野村麻生神社のはんや舞が、福岡県無形民俗文化財に指定 星野小学校にへき地集会所（講堂）を設置
昭和36年	星野村商工会創立総会が開催 小野、仁田原小学校にプールが完成
昭和37年	県道八女・添田線全面開通 轟～千足間に堀川バス・西鉄バス運行開始
昭和38年	仁田原小学校が全焼
昭和39年	星野村に初めて消防ポンプ自動車を導入 星野村戸籍等民政資料が福岡県有形民俗文化財に指定 第1回星野村産業祭が開催
昭和40年	星野村老人クラブ連合会が結成 星野村体育協会が結成 池の山忠霊塔前に戦死者遺族婦人部により、五重塔が建立 助産施設として、「星野村母子健康センター」が認可される
昭和41年	社会福祉法人星野村社会福祉協議会を設立 農村集団電話が開通
昭和42年	古塚地区にへき地保健福祉館（保育所併設）が完成 授産施設麻生園開設
昭和43年	役場前に建設された「平和の塔」に原爆の火を転火 本星野に黨が開かれ、星野焼（源太黨）が復活 国土調査始まる しぜん幼稚園開園 仁田原へき地保育所開設
昭和44年	星野村中央公民館完成
昭和45年	「広報ほしの」を創刊 大円寺境内に星野村史料館が開館
昭和46年	農家経営基盤の確立を期し、椋谷地区に開墾パイロット事業が竣工 耳納高原病院が開院 八女消防本部星野分駐所開設
昭和47年	この年から「星野村成人式」を1月5日後に開催 村章を制定 十筆地区簡易水道給水開始 真名子ダム建設反対第1回村民決起大会開催 第1回村民体育大会開催
昭和48年	室山神社の杉と桁山の榎の木が福岡県文化財（天然記念物）に指定
昭和49年	行政福祉センター（庁舎）落成 「星野を守る会」を結成
昭和50年	星野村青年団、第1回青年祭を開催 十筆窯開かれる
昭和51年	山村振興事業によりヤマメの養殖場が完成
昭和52年	第1回ビレッジーズ・マラソン大会が開催 第1回星野村芸能祭を開催 星野村総合体育館竣工
昭和53年	第1回星野村茶製造競技大会が開催
昭和54年	室山熊野神社の「御神幸」が35年ぶりに復活 星野村健康増進センターが竣工 椋谷地区簡易水道給水開始
昭和55年	第1回星野産業祭が開催 本星野地区簡易水道給水開始 特別養護老人ホーム「星寿園」開園
昭和56年	自給肥料供給施設が完成